

1. ミラノ万博概要 ～世界で初めての「食」の万博～

「2015年ミラノ国際博覧会」（略称「ミラノ万博」）は、2015年5月1日～10月31日の184日間、イタリア・ミラノで開催されています。2005年の愛・地球博、2010年の上海万博に続く今世紀3度目の登録博覧会（大規模な万博）です。148カ国・地域・国際機関が参加を表明、会期中は約2,000万人の来場が想定されています。開催テーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを(Feeding the Planet, Energy for Life)」です。「食」をテーマとした、史上初めての万博です。

Official Participant



MILANO 2015

FEEDING THE PLANET
ENERGY FOR LIFE

●ミラノはこんな場所

イタリアでは首都ローマに次ぐ第2位の都市。観光地としても名高く、北部イタリアにおける商業・工業・金融の中心です。万博会場は、ミラノ中心部から地下鉄で約30分の立地に位置しています。



●テーマ「地球に食料を、生命にエネルギーを」

ミラノ万博では「世界中の人々に、十分に安全で、健康的、適切、持続的な食料を保証することは可能か？」という地球規模の課題が掲げられています。参加国は、こうした課題に対する貢献策や解決策の提示が求められています。

●公式マスコット「Foody（フーディ）」

ディズニーイタリアのデザインによるミラノ万博の公式マスコット。名前は「Food（食）」「Community（コミュニティ）」「Diversity（多様性）」に由来しており、バナナやカブ、ザクロなど11のメンバーが集まった家族がモチーフとなっています。



【2015年ミラノ国際博覧会 概要】

- ・ **テーマ**：「地球に食料を、生命にエネルギーを」
- ・ **サブテーマ**：

1. 「食料の安全、保全、品質のための科学技術」	
2. 「農業と生物多様性のための科学技術」	
3. 「農業食物サプライチェーンの革新」	4. 「食育」
5. 「より良い生活様式のための食」	6. 「食と文化」
7. 「食の協力と開発」	
- ・ **開催地**：イタリア・ミラノ
- ・ **会期**：2015年5月1日-10月31日（184日間）
- ・ **開場時間**：10時00分～23時00分（夜間入場：19時00分～23時00分）
- ・ **会場面積**：110ヘクタール
- ・ **想定入場者数**：約2,000万人
- ・ **参加国等**：148カ国・地域・国際機関が参加表明

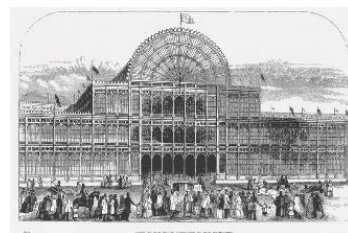
2. 「万博」とは？

●オリンピック、ワールドカップと並ぶ世界3大イベント

国際博覧会（万博）は、BIE（博覧会国際事務局）の承認のもと国際博覧会条約に基づき開催される博覧会です。オリンピックやワールドカップとともに世界3大イベントに数えられます。1988年の博覧会条約の改正（1996年施行）により万博の規模等が定められ、総合的なテーマで大規模に開催される5年に1回の登録博覧会と、専門的なテーマを扱う認定博覧会に分けられました。今回のミラノ万博は登録博覧会となります。2017年（認定博）はアスタナ（カザフスタン）での、2020年（登録博）はドバイ（アラブ首長国連邦）での開催が決定しています。

●万博の歴史と変容

世界で最初の万博は、1851年に開催された第1回ロンドン万博です。20世紀には「国威発揚型」「開発型」の万博が隆盛を極めました。時代の変遷により万博の役割や意義が問われ始め、第115回BIE総会（1994年）決議により、21世紀に向けた新しい万博の要件が以下のように改定されました。



▲第1回ロンドン万博

- ・すべての万博は、現代社会の要請に応えられる今日的なテーマをもたなくてはならない。
- ・万博のテーマは、すべての参加者がそれぞれ表現できるほどに十分に大きなものであって、当該分野における科学的、技術的及経済的進歩の現状と、人間的、社会的な要求及び自然環境保護の必要性から諸問題を浮き彫りにするものでなくてはならない。

その後、21世紀最初の万博として2005年に開催された「愛・地球博」は、人類共通の課題の解決策を提示する「理念提唱型」万博へと変容を遂げる契機となりました。このような21世紀型の万博では、「自然の叡智」（愛・地球博）、「より良い都市、より良い生活」（上海万博）といった地球規模の課題がテーマとして提示され、各国館において各々その解決の方向を示すことが求められています。



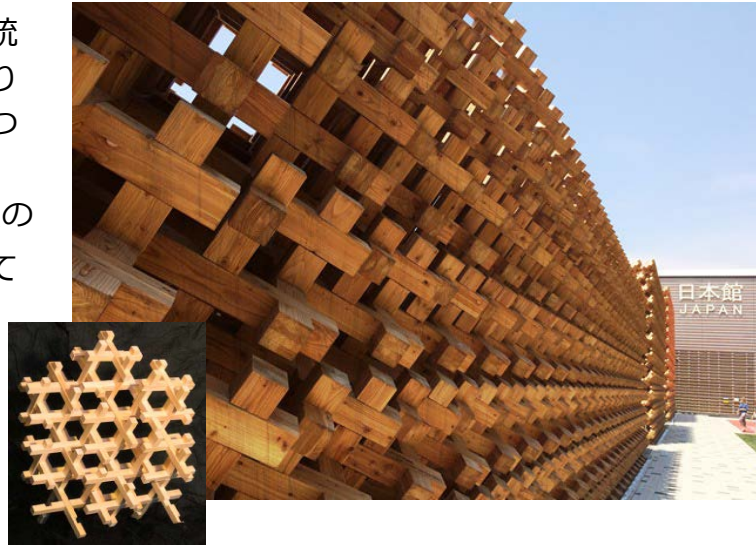
「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに開催されるミラノ万博は、食料をめぐる人類共通の課題と、その解決策や貢献策を模索し、その方向性を提示していく「理念提唱型」の万博です。

4. 日本館の建築

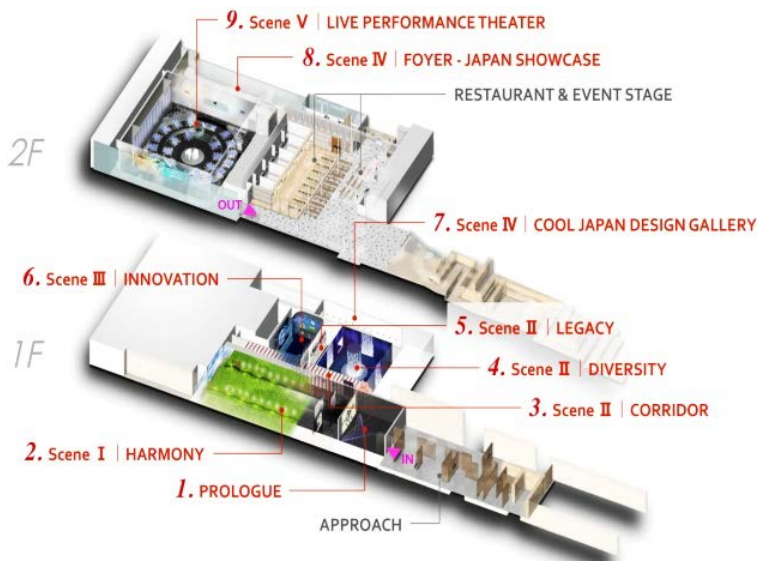
～伝統文化と最先端技術を融合させた「立体木格子」による建築～

日本館の建築には、法隆寺など日本の伝統的木材建築に用いられている木同士の「めり込み作用」に、最新の解析技術を活用してつくられた「立体木格子」を採用しています。建材には、2011年に発生した東日本大震災の被災地である岩手県産のカラマツを使用しています。

日本館は2階建てで、1階は展示エリア、2階はメインショーとレストラン、イベント広場で構成されます。



5. 日本館の展示 ～ Harmonious Diversityを巡る旅～



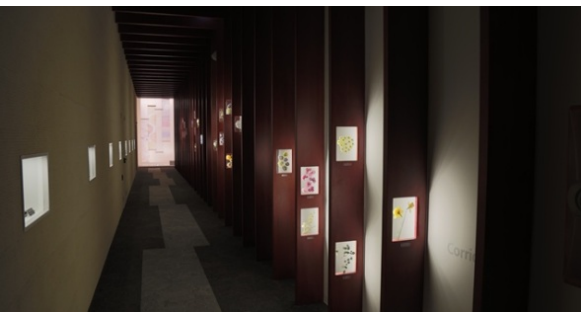
日本館の展示テーマは「Harmonious Diversityを巡る旅」。食を巡る遙かなる旅の体験を通して、日本の農や食、食文化の多様性を来場者にお届けします。展示エリアは日本館の1～2階に位置し、プロローグと5つのシーンで構成されます。五感に訴える演出、インタラクティブな体験、ライブ・パフォーマンスショーなど様々な手法を用いて来場者にお楽しみいただきます。



▲Scene I HARMONY

～自然と寄り添い、多様な恵みを育む日本の食の産地～

コウノトリに誘われ、日本の食の産地を巡る旅を体験できます。壁面のハーフミラーの無限反射と、稲穂に見立てたスクリーンに最新のプロジェクションマッピング技術を組み合わせた幻想的な空間で、来館者が分け入るように稲穂の中に入ったり、手をかざして稲穂を揺らしたりと、インタラクティブな展示となっています。クリエイターはチームラボの猪子寿之さんです。



▲Scene II CORRIDOR

●Scene II CORRIDOR ～日本庭園の石畳をイメージさせる細長い「おもてなし」の回廊空間～

日本庭園の石畳をイメージさせる細長い「おもてなし」の回廊空間。日本各地で見られる四季折々の風景と祭りをご紹介します。「押し花アート掛け軸」とともに香りと音で季節感を演出し、壁面では映像装置が設置された8つの窓で四季の風景や祭事を展示しています。

●Scene II DIVERSITY ～日本の農と食、食文化の多様性、さらなる拡がり～

1,000を超える多種多彩なコンテンツが流れ落ちる「ダイバーシティの滝」。食の源である日本の水を、象徴的に滝で表現しています。「日本館アプリ」を立ち上げたスマートフォンを挿し込み、流れてきた画面に触れるとコンテンツが取り込まれ、持ち帰ることが可能です。

▲Scene II DIVERSITY





●Scene II LEGACY

～未来につながる伝統の知恵と技。日本食は「未来食」～
「一汁三菜」「発酵・天日干し」「出汁・うま味」「口内調味」
「地域や季節に応じた多様な食文化」など、古来より日本食にこめられた様々な知恵と技が、地球上の人びとの健康的な食生活に貢献する「未来食」となることを紹介する食のショーケースです。

▲Scene II LEGACY

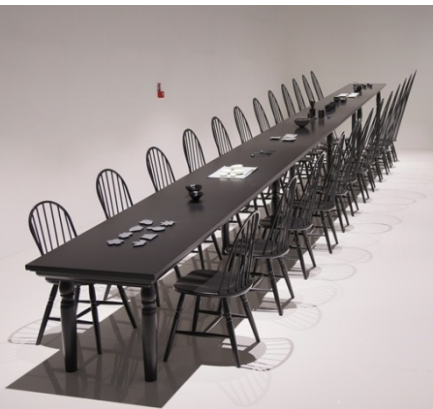
●Scene III INNOVATION

～地球的課題に対し独創的に取り組む「日本のクリエイティブ・ソリューション」～

世界の食糧問題において何が課題となっているのか、その課題に日本がどう解決していくか、「触れる地球」を使って紹介するコーナー。「人口爆発と食糧危機」「食の不均衡」「気候変動」「食の偏在化」の4つの課題と16のソリューションを展示しています。



▲Scene III INNOVATION



●Scene IV COOL JAPAN DESIGN GALLERY

～伝統と革新がもたらす“クールジャパンダイニング”～

佐藤オオキさんのプロデュースによるギャラリー空間。日本各地の伝統的工芸品の匠たちが生み出した様々な和食器による「クールジャパンダイニング」です。12産地16作品を展示しています。

▲ Scene IV COOL JAPAN DESIGN GALLERY

●Scene V LIVE PERFORMANCE THEATER

～食卓から始まる人びとの想い、絆。日本食は世界をつなぐ「地球食」～

未来のレストランで展開されるライブパフォーマンスショー。箸を使って入力するメディアテーブルと、キャストによるパフォーマンス、大型映像空間演出により、一体感のあるショーを展開。参加型の演出で、日本食が世界の人びとを笑顔でつなぐ「地球食」となることを体感していただきます。



▲Scene V LIVE PERFORMANCE THEATER

6. 日本館のレストラン

～本格懐石とバラエティ豊かなフードコート～

「Feel the Japan Passion 理解を共感に変える、日本の食の体験」をテーマに、本格日本食レストランとフードコートを展開しています。和牛、米、そばなど、日本産食材にこだわった“本物”の日本食をご堪能いただけます。

●本格日本食レストラン「美濃吉」

技、空間、おもてなしなど、日本の食の魅力を深く追求した日本最高峰の京風カウンター会席です。美濃吉が運営しています。




Japan. Star Dining.

●フードコート「Japan. Star Dining.」

日本ならではの食の楽しさや、世界に誇る食の技術などを紹介する、バラエティ豊かなブースからなるフードコートです。CoCo壱番屋、サガミチェーン、柿安、モスバーガー、人形町今半、京樽が運営しています。

※柿安、モスバーガーは5～7月のみ、人形町今半、京樽は8～10月のみ出店。



7. イベント広場 ～日本各地の自治体・団体が参加～

イベント広場では、自治体や団体等による日本の食・食文化等に関連したワークショップ、パフォーマンス、映像放映、実物・パネルによる展示等が行われます。日本各地から27組35自治体・20団体・3官公庁が参加し、日本館への参加自治体数としては過去最多となります。

イベント広場参加自治体・団体一覧

<5月>

- 5月1日～5日： 裏千家
- 5月12日～16日： 「本場の本物」ブランド推進委員会
- 5月17日～18日： 風迢舎
- 5月19日～20日： 一般社団法人ときの羽根
- 5月21日～23日： NPO法人モータースポーツ子ども支援協会
- 5月24日～27日： 山口県
- 5月29日～30日： NPO法人TABLE FOR TWO International
- 5月31日～6月2日： 佐賀県有田焼創業400年事業実行委員会

<6月>

- 6月3日～6日： 日本陶磁器産業振興協会
- 6月7日～11日： ミラノ国際博覧会京都ウィーク実行委員会（京都府/京都市/京都商工会議所等）
- 6月13日～14日： 2015年ミラノ国際博覧会「美と食の融合芸術展」実行委員会
- 6月15日～16日： NPO法人こころとからだのサポート 夢飛行/霧島市（鹿児島県）
- 6月17日～18日： 国土交通省等
- 6月19日～21日： 全国商工会連合会
- 6月22日～23日： NPO法人長久手エンジン
- 6月24日～25日： 一般社団法人日本洋菓子協会連合会
- 6月26日～27日： 全国花き輸出拡大協議会
- 6月28日～30日： 伊賀市（三重県）

<7月>

- 7月1日～4日： 三重県
- 7月5日～7日： 和歌山県
- 7月9日～15日： JAグループ
- 7月16日～19日： 兵庫県
- 7月20日～23日： 小浜市（福井県）
- 7月24日～27日： 2015年ミラノ国際博覧会・東北出展委員会（岩手県/宮城県/石巻市/一般社団法人東北経済連合会）
- 7月28日～31日： JTAAジャパンテーブルアーチスト協会

<8月>

- 8月1日～2日： 富山県
- 8月4日～8日： 愛知県/名古屋市
- 8月9日～11日： 長崎県産地ブランド産品輸出促進協議会
- 8月12日～16日： 観光庁/国際観光振興機構（JNTO）
- 8月19日～22日： 一般財団法人地球産業文化研究所
- 8月23日～27日： 静岡県/山梨県
- 8月28日： 愛知県外国人受入協会
- 8月29日～9月1日： 香川県

<9月>

- 9月2日～5日： 宮崎県
- 9月6日～9日： 徳島県
- 9月10日～13日： 大阪市
- 9月14日～15日： 文化庁
- 9月16日～19日： 日本酒造組合中央会
- 9月24日～26日： 一般財団法人燕三条地場産業振興センター/三条市/燕市（新潟県）
- 9月27日～30日： 公益社団法人日本茶業中央会

<10月>

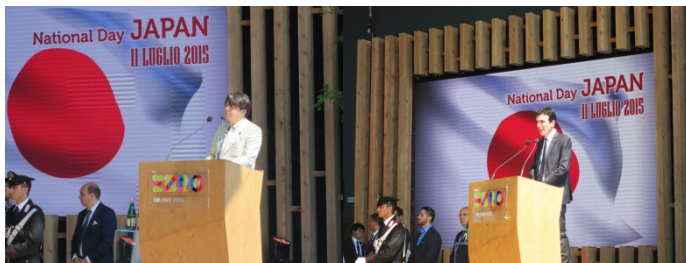
- 10月2日～3日： 鶴岡市（山形県）
- 10月4日～5日： 新潟市（新潟県）
- 10月6日～8日： 2015年ミラノ国際博覧会北海道実行委員会
- 10月9日～10日： 山形県ミラノ国際博覧会出展等実行委員会
- 10月11日～14日： 福島県
- 10月16日～21日： 世界農業遺産広域連携推進会議
- 10月22日～23日： 新潟県
- 10月24日～27日： 福井県
- 10月29日～30日： 群馬県 ミラノ国際博覧会出展等協議会

8. ジャパンデー（7月11日）

～きゃりーぱみゅぱみゅらによる文化公演、東北復興祭りパレード等を開催～

7月11日、日本のナショナルデーである「ジャパンデー」が開催されました。文化公演「JAPAN DAY スペシャルライブ2015」では、欧州でも人気の高いきゃりーぱみゅぱみゅによるライブのほか、能、書画、三味線、和太鼓など日本の伝統芸能を披露。また、東北の10の祭りによる「東北復興祭りパレードinミラノ万博」も開催され、日本館として会期中最大の盛り上がりを見せた一日となりました。

また、ジャパンデーに合わせ、6月25日から7月13日まで、ミラノ市内のステッリーネ宮殿において、連携イベント「ジャパンサローネ」が開催されました。



▲ジャパンデー公式式典



▲東北復興祭りパレードinミラノ万博



▲JAPAN DAY スペシャルライブ2015

9. 日本館サポーター ～200名を超す著名人が日本館を応援～

日本館では、イタリア、ミラノ万博テーマ、日本館コンセプトなどに関わりの深い方々を「ミラノ万博日本館サポーター」として農林水産大臣および経済産業大臣より任命するプロジェクトを進めています。就任いただいた日本館サポーターには、その知名度や情報発信力を活かして、様々な場面でミラノ万博及び日本館の魅力発信にご協力いただいております。



- 日本館公式ウェブサイト：<http://www.expo2015.jp/>
- 日本館公式facebook：<http://www.facebook.com/expo2015.jp>

別紙 1-1 イベント広場レポート

イベント広場では、連日自治体・団体によるイベントが開催されています。ここでは、5～7月に開催されたもののうち、特に人気の高かったイベントをご紹介します。

1. 山口県「世界に届けます 山口の食・文化・匠の技」（5月24日～27日開催）

自治体トップバッターを務めた山口県のイベントでは、今回、ミラノ万博への日本産食材持込に関する特例措置により初めて持ち込みが可能となった「フグ」が注目を集めました。薄造りのデモンストレーションと特製カルパッチョの試食が来場者に好評で、有力紙がこぞって報道するなどイタリア国内で大きな話題を呼びました。このほか欧州で人気の日本酒「獺祭」の試飲や、迫力ある大蛇の「神楽」なども行われ、大盛況に終わりました。



▲山口県（万博特例により持込可能となったフグを披露）



▲山口県（村岡知事ほかご来訪）

2. 佐賀県有田焼創業400年事業実行委員会「ARITA PORCELAIN PARK in MILANO BY SAGA PREFECTURE」（5月31日～6月2日開催）

「有田焼」を前面に打ち出した佐賀県のイベントでは、有田焼のミニチュアをカプセルに入れた「ガシャポン」が子供たちの人気を呼び、連日行列が絶えませんでした。「ろくろ」を使った制作の実演も行われ、展示方法等が非常に工夫されたイベントでした。



▲京都ウィーク実行委員会（山田知事・門川市長ほかご来訪）



▲佐賀県（山口知事ほかご来訪）、有田焼制作実演

3. ミラノ国際博覧会京都ウィーク実行委員会（京都府／京都市／京都商工会議所等）

京都ウィーク「日本の美意識の原点 京都 ～伝統と革新～」（6月7日～11日）

鏡開きとともに開会した「京都ウィーク」では、舞妓・芸妓によるパフォーマンスが「日本的で美しい」と好評でした。美濃吉の料理長による出汁の取り方の実演も行われ、「和食」の奥深さをイタリアの方々にも知ってもらおう絶好の機会となりました。

別紙 1-2 イベント広場レポート

4. 三重県「食と祈りの食卓」(7月1日～4日開催)

三重県産の「尾鷲ひのき」を使用した4つの空間（香りの間、祈りの間、体感の間、茶室の間）を設置。ステージでは、県立相可高校食物調理科の生徒と京都吉兆嵐山本店の徳岡総料理長による調理の実演が行われ、来場者の注目を集めました。



▲三重県（鈴木知事ご来訪）



▲三重県（県産ヒノキを使用した展示、県立高校生徒による調理実演）



5. 和歌山県「和歌山県の日～The Origin of Washoku and Travel～」(7月5日～7日開催)

和歌山県のイベントでは、仁坂知事自らがプレゼンテーションを行い県の魅力を紹介。梅干しの試食や梅酒の試飲が行われたほか、鳥取県の平井知事も駆けつけ、同県とのコラボレーションステージも実現しました。



▲和歌山県（仁坂知事によるプレゼン）



▲和歌山県（平安衣装記念撮影）



▲鳥取県（平井知事ご来訪）

6. 兵庫県／ひょうごの美味し風土拡大協議会「Feel Hyogo, the Taste of Japan!」(7月16～19日開催)

県内各地域が多彩なプログラムを展開。「コウノトリ育むお米」や丹波黒大豆、手延素麺、神戸ビーフ、淡路島たまねぎなど、兵庫県が誇る産品を用いた調理実習・試食のほか、淡路の人形浄瑠璃や姫路城などの観光PRも行われました。



▲兵庫県（井戸知事ご来訪）



▲兵庫県（日本酒の試飲、調理実演）



別紙2-1 ミラノ万博トピックス

万博会場では、各参加国・国際機関により独自のテーマに基づいたパビリオンが出展され、意匠をこらした展示やレストラン等が展開されているほか、184日間の会期中、毎日様々な催しが行われています。

ここでは、現在、ミラノ万博で話題を集めているパビリオンやイベント等のトピックをご紹介します。



▲万博会場を東西約1.5kmに伸びる大通り「デクマーノ」ここに日本館をはじめ全ての参加国のパビリオンが配置されています

●人気パビリオンご紹介

・イタリア館 (Palazzo Italia) →

開催国イタリアのパビリオンは会場内パビリオンで最大面積を誇ります。万博会場を南北に延びる通り「カルド」の北端に位置し、隣接する「生命の樹」(Tree of Life) とともにミラノ万博のシンボルとなっています。



・アラブ首長国連邦 (UAE) 館←

2020年ドバイ万博の開催国であるUAE館は、パビリオン全体が砂漠・砂丘をイメージして作られており、壁の材料にも砂が使われています。視界最大170度のスクリーンで上映される8分間のショートムービーが、水や食の大切さを物語り仕立てて訴え、見所です。



・カザフスタン館→

2017年アスタナ万博の開催国であるカザフスタン館は、砂絵のアートの実演のほか、3Dシアターのメインショーなどが人気のパビリオンです。パビリオン正面のステージでは、連日伝統的な音楽等のパフォーマンスが披露されています。



別紙2-2 ミラノ万博トピックス



・クラスター

コメ、カカオ、コーヒーなど9つのテーマのもと、複数の国・企業等が共同出展する「クラスター」と呼ばれる新たな参加モデルなどが注目されています。万博としては初めての試みで、アフリカ等の地域から多く出展しています。

●人気イベントご紹介

・「生命の樹」(Tree of Life) 噴水ショー

イタリア館の横、レイクアリーナの湖面にそびえ立つ田高さ37mのシンボル。広大な万博会場の目印となっており、来場者の憩いの場としても活用されています。毎日昼と夜、迫力ある噴水と光の演出によるショーが行われ人気をよんでいます。



・シルク・ドウ・ソレイユ特別公演

シルク・ドウ・ソレイユによるミラノ万博特別公演「ALLAVITA！」が、万博会場内オープンエアシアターで開催されています(8月30日まで)。クールなダンス、技、息を呑むほどの美しい光景、観客を楽しませてくれるユーモアなどが詰まった見応え抜群のショーです。日本人パフォーマーも出演しています。

